

落花生のゆで豆用新品種誕生

(東京)千葉県茂原市にあるレア・ピーナッツ育種園の園主である曾良久男(かつらひさお)氏は長年の品種改良の努力により、昨年末に落花生のゆで豆用新品種「愛の香り」の育成に成功、早々に農林水産省に品種登録出願し、本年3月に出願公表された。

当品種はゆで豆用品種の「郷の香」を母親に、極大粒の良食味品種として近年生産や消費が伸びている「おおまさり」を父親として交配し、「おおまさり」に比べ、①莢と実が10%ほど大きく、②ゆで豆が甘く、③立性で草勢がよく、作業性に優れ、中耕・除草や収穫、脱莢作業がやりやすい

等の改良点がある。

栽培上の留意点として、栽植密度は観光農園で「おおまさり」並みの広め、一般栽培では「千葉半立ち」と「おおまさり」との間、耐病性は一般品種並み、地下部は「おおまさり」並みで、白絹病、茎腐病に注意と対策が必要。収穫期は「おおまさり」と同時期となる。

現在、観光農園用として栽培されているが、直売や市場出荷の生産者にも十分使ってもらえるとのことである。

(レア・ピーナッツ育種園・千葉県茂原市緑町
1・19 0475・23・1128)